

大正十四年七月發行



耕地整理研究會報

第六十九號

耕地整理研究會

故名譽會員
上野博士哀悼號

故名譽會員上野博士哀悼

名譽會員上野英三郎君の長逝を悼む

大正十四年五月二十三日日本會名譽會員農學博士上野英三郎君忽然長逝せられました。眞に哀惜痛恨の至りであります、博士は本會の創立に大なる力を致されたのであります、本會々員の多數は博士の門下生であります、本會創立以來茲に十八年博士は最近に至るまで、在京幹事として終始一貫本會發展の爲に努力せられたのであります、本會の今日あるは博士の努力に負ふところ甚多いのであります、然るに博士の後進を誘掖すること懇切なる性情は常に發露して已まなかつたのであります、乃ち自ら進んで幹事を辭し後進を推擧し陰に本會の後援者者たらむことを希望せられたのであります、是に於て本會在京幹事は屢々會合を開催して博士の留任せられむことを願ふたのでありまじげなれども博士の希望堅くして容易に動かし難きを知り大正十四年四月二十七日地方幹事の上京を機とし幹事會を開催して之を協議

致したのであります協議の結果會則を變更して名譽會員を推薦し得る規則を置き滿場一致直に博士を本會名譽會員に推薦することを決議したのであります然るに博士は本會名譽會員たること僅かに二十七日本會報は未だ此のことを會員諸君に報告するの暇もなき間に忽焉として白玉樓中の人となられたのであります人世上に夢の如し寔に哀惜痛恨の至りであります

博士の偉大なる功業は會員諸君の夙に知悉せらるるところであります、今茲に暇々するの要なきことと思ひます、本會は本會の創始以來最有力なる指導者たる博士を喪ひたることを哀惜痛恨し茲に本會を以て博士の哀悼號とし謹て之を靈前に捧けて博士の冥福を祈る次第であります

大正十四年六月 日

耕地整理研究會

名譽會員上野博士逝去す

本會名譽會員東京帝國大學教授正四位勳三等農學博士上野英三郎氏は五月二十一日午前十二時農學部教室に於て吉川教授と對談中宿病激發して重體に陥り二十三日遂に逝去せられたり、危篤の報天聰に達するや博士の功勞を思召され特に左記の通叙位勳の御沙汰ありたり、

同月二十六日午前十時より於自宅佛式に依り告別式を執行し六月九日郷里三重縣一志郡本村に於て本葬を營まれたり、儀式は兩回とも朝野の名士並門下生等千數百名參列し各地方よりの弔電弔文幾百通に達し漫に故博士の德望を偲はれたり本會も特に幹事を派遣して弔詞を捧げしめたり、

叙正四位授旭日中授章

從四位勳三等 上野英三郎

左に故博士の靈前に捧げられたる多數の弔辭中二

三を録して讀者と共に博士の功業の一端を想ふこと
せり

七四

弔辭

東京帝國大學教授正四位勳三等農學博士上野英三郎君長逝せらる嗚呼哀しい哉君明治二十八年我が農科大學農學科を卒へ直に大學に入り農業土木學及農具改良に關する研究を遂げ後農科大學講師を囑せられ同三十五年農科大學助教授となり四十一年農業土木學研究の爲歐洲に留學せられ新學の蘊奥を究め同四十二年朝野四十四年教授に任せられて農業土木學講座を擔任し大正二年十二月農學博士の學位を授けらる同八年、更に工學部土木工學科の授業を擔當し爾來二十有六年君は學術の研究と後進の教導とに心血を注ぎ新學の進歩の精進整理の發達とに努め其功績偉大にして我農業史上特出すべきものあり君又農商務省、内務省朝鮮總督府等に於ける耕地整理治水等に關する要務に參與し過くと云ふとして令名留らざるな、我學界の權威として聲名一世に高かりしに眞に故存るなり君資性恬人淡格高潔にして其後進を指導すること甚だ懇到親切な、故に一人は其の教を受けたる者は君を觀ること慈父の如くなりたるは莫し君知命を通ぐるに僅かに數年學界水く君の墓に報らんことを仰したるに不幸二雙の契す所となり今や則ち亡し嗚呼哀しい哉君當日病を冒して教室に到り隣友と新設の農業工學專攻學課に關し實行方法を議せんとするに際し突如として持病發せらる君の病勢に思はる所以の平生亦以て想ふべし今や幽明路を異にし君の遺愛復々接すべからず爾に學界の一大憾事にして文に臨み書ふことゝるを知らず悲れ

し君が遺せる功績は水く後世に垂れ永名は長に歴史を照さん
君亦以て既すべし茲に謹みて哀悼の誠を致す

大正十四年六月九日

東京帝國大學總長 古在 由直

弔 辭

東京帝國大學教授正四位勳三等農學博士上野英三郎君諱焉として逝
く哀悼何ぞ堪へん君明治四年三重縣一志郡木村に生れ長ずるに及ん
で東京に遊學し明治二十一年東京農林學校に入り同二十八年本學部
農學科を卒業するや更に進んで大学院に於て農業土木及農具を専攻
せり同三十三年本學部講師を囑託せられ農學第二講座を分擔し同三
十五年助教に任せられ同三十八年農務技師を兼任し耕地整理及
土地改良の事業計畫に參與せり同四十年私費留學の許可を得て同逸
國に遊び次て農業土木學研究の爲め佛蘭國に留學を命ぜられ専ら
新界の研究に努め同四十二年歸朝し同四十四年教授に任ぜられ農業
工學講座を擔任し大正二年農學博士の學位を授與せらる
願つて君が本學部講師を囑託せられたるの當時に於ては農學工學に
留意するもの絶無なりしが君の炯眼は我國農業の將來に於て新學の
忽にすべからざるを著破し之れが研究に一身を委ね爾來二十有五年
間孜孜として倦まず學生の指導亦懇切を極め以て今日の隆盛を見る
に至れるは全く君が努力の賜にして蓋し君は我農工學の種子を播
き之を育成して美実を結ばしめたる人にして實に新學の創設者なり
故に世の君を推して新學の一大柱ととなす誠に故ありとす又茲に農

商務會が我農務増進の基本計畫として開墾及耕地整理獎勵の策を定
め其技術の講習を本學部に委託せし以來君亦之れが經營の任に當り
指導總多岐の人材を養成すること二十年現時我國に於て本事業の
遂行に協助せる人士は咸に君が蒞臨に浴せりと云ふも敢て溢美に非
ざるなり今や本學部學科課程の改正成り農業土木學專修の二科を設
け新學の激運を劃せんとするの秋に當り其柱石たる君の辭に接す是
れ獨り本學部の爲のみならず實に我學界の一大損失なりと云ふ可
し

君資性明敏にして寛厚の徳を備へ淡快にして任侠の風あり其人に接
するや傾倒を設けず問ふ處專政の學術に見れば藪藪を傾けて皆ます
其門下を導くや嚴正にして懇篤なり情實に溢ます之を以て世人は君
を敬愛し門下は君を慕ふこと慈父の如し君の病を獲るや友人子弟頗
りに脚養を勤むるも皆せず病を冒して臨に當り其貨に任ぜしは遠く
人の及ばざる處なり

君尚尙未だ老境に達せず我學界は深遠なる學識に期待する所頗る大
なるものありしに不幸にして天壽を假せず俄に身歿す嗚呼悲哉今や
幽明境を異にし再び君が温容に接する能はず既往を追慕して萬分交
々に至り又首ふ所を知らず聊か蕪辭を陳へて申意を表す

大正十四年六月九日

東京帝國大學農學部長正四位勳二等農學博士

町田 咲吉

弔 辭

東京帝國大學教授正四位勳三等農學博士上野英三郎君長逝せらるる
嗚呼哀しい哉君農科大學に於て農業工學講座を擔任せらるる、傍大正八
年十一月以來我が工學部に於ける灌漑及排水工學の授業を擔當せら
れたり

君資性温厚學識淵博後進を誘掖すること無對親切新學の權威とし
て我工學部學生の爲め奮瘁せらるる今や幽明境を異にし復た温容に接
する能はず痛恨甚ぞ堪へん
謹みて茲に弔詞を呈す

大正十四年六月九日

東京帝國大學工學部長工學博士

倭 國 一

弔 辭

故東京帝國大學教授朝鮮總督府屬託摩學博士上野英三郎君の靈に告

去る五月二十一日飛電あり突如君の危篤を傳ふるや君が知人門下生
は只管君の快癒を祈りて止まざりしも天途に壽を假さず次で長逝の
悲報に接し哀悼に堪へず

君は夙に東京帝國大學教授として合名あり時勢の推移に鑑み農業
土木工學の獨立を提唱せられ其の創設を見るや自ら其の講座を主宰
鋭意し子弟の養成に努むると共に其の深遠なる學識と該博なる経験

を傾倒して常に新業の指導啓蒙に努與せられ今日全國の土地改良事
業にして君の教を仰かざりしもの無しと云ふも溢言にあらず

大正九年朝鮮總督府は帝國食料問題に鑑み新に朝鮮産米増産計畫を
樹立するに當り君は囑託として其の規畫に參與せられ次で産米調査
委員の設置を見るや之が委員として其計畫を傾倒せられ朝鮮に於
ける産米計畫の樹立を見たるは實に君に負ふ所多大にして其の功計
すべからざるものあり朝鮮に於ける土地改良事業は今や漸く其の緒
に就きしと雖今後何盤飛策すべきもの尙懸からず君の指導に俟つし
の益々多からむとす然るに不幸二翌の犯す所となり遠大なる概負を
擔きて逝去せられしは邦家の爲め哀情に堪へざる所なり

君は學識一世に卓越せしのみならず資性寛厚にして熱誠一度君の聲
咳に換せる者悉く欽慕措かざる處にして然世稀に見る人格者なり
今日京都に於て君が葬儀を營まるゝに際し親しく参列し能はざる知
人門下生一同惜別の情に堪へず遂かに追悼會を舉行し謹みて君が英
魂を弔ふ

在天の靈希くは來りて享けよ

大正十四年五月二十六日

殖産局長 池田 秀雄

弔 辭

大正十四年五月二十三日農林省屬託摩學博士上野英三郎君突如とし
て遠逝せらるる君は近時健康の如くならざりしと最近に於ては殆ど
ど平常に異らず加ふるに遺毒秋に富めるを以て今後相共に大に活動

せむことを期待せしに測らざりし氣薄として幽喪處を異にするに五
らんとは報に接し驚駭積く所を知らず痛情哀悼の情に堪ふるなし君
は本邦農業工學の創始者にして新學の發達子弟の養成に努力せらる
ること二十年始終一貫して今日に至り今や學界に於ては君が力に
依つて新學の新科を設くるの運に遂み全國に亘る耕地に關する事業
は君が教養せる幾千人の人材に依りて指導せらるゝ盛況を見るに至
り

君は兩り學者として叙上の成果を収められたるのみならず又能く實
務に關與し明治二十九年以來主務者囑託として參與政策せられ事業
發展の今日ある君の貢獻に依るもの誠に稀少ならず然り而してや今
耕地に關する事業は食糧問題農村問題人口問題等に伴ひ益々緊切
政策を加へ今後大に施設を要するの時に際會し人材の養成に方策の
樹立に君が力に俟つもの願ふ多かりしに俄に此の君喪をふ誠に國家
の損失にして惜みても猶ほ餘ありと謂ふべし

然れども人生無常天命如何とも爲すべからず吾人斯の業に關係ある
者唯だ悲嘆をのみ事とせず協力精勤以て君が遺志を失墜せざらんこ
とを期するは即ち君が遺を慰むるの所以なるを思ひ追て大に奮勵す
る所あるべく庶幾なげば以て君をして慰せしむるを得ん
今茲に君と永別するに方り君が遺容は剪髮として顔前に在り而かも
君一度去て復に歸らず嗚呼悲哉茲に微意を陳して謹て申意を表す尙
くは來り響けよ

大正十四年六月九日

農林省耕地課長

從四位勳三等農學博士 有働 良夫

弔 辭

農學博士上野英三君の位す所なり遺志として長逝せらる嗚呼悲
い哉

博士は最高學府教授として百英蘭國の要職に在るに拘らず其く朝鮮
中島殖産興業の開發に熱心奮起せられ今や博士の遺策せし施設々と
して遂み今後益々博士の學徳に待つこと多かりしに幽冥長く銷して
再び博士の聲存に接する能はず兩り中島の爲歎情に堪えざるのみな
らず國家の爲其憤積く所を知らざるなり嗚呼悲い哉
本日博士の徳を敬慕し追悼の儀を舉げらるゝに當り哀辭一章を捧げ
て申辭となす布くは英魂勇氣として來り享けらよ

大正十四年五月二十六日

朝鮮農會長侯爵 李 完 用

弔 辭

故東京帝國大學教授農學博士上野英三君の逝去を悲み謹んで哀悼
の意を表す

君は英資卓出外に學を農科に志し業を大學に修め更に海外に遊學し
て其の奥蘊を極む後職を大學に奉するや其の著績する處を傾注して
後進を教養し且我國農業政策上土地改良の最も緊要なるを想ひ新運
に對する學理と其の應用に付所費を重んじ遂に克く農業土木工學を創
始するに至れり更に其の實地に當りては指導除穢疎らどるなく實に
農業開發上の指導者にして我國農業工業の始創たり近時土地改良事

衆の隆昌に違き食糧問題解決の難報として宣傳せらるゝに對れるは
成なるの順序に係るゝのにして其の功績は普く天下の瞻仰する以な
り今後益々此種事業の國家的施設の進展を見んとするに當り君に依
つべきもの大なるも今君忽焉として逝く痛惜何ぞ堪へんや君は昔に
専門學理の討究に止らば法規の制定、其他農具機械の改良等況く意
を社會各般の事態に用ひ常に國家を念として屏利翹弊を下し以て農
業行政に適切なる指針を與へたり

君は資性寛厚氣宇潤達にして能く人を容る其の子弟を教ゆるに慈父
の如く其の後進を導くに慈母の如く常に温情を瀦して親睦其の訓を
愼らば門下生との情誼は渾然融和して人情の美を呈せり一度君が
聲咳に接するもの誰か其の徳を敬慕せざる者あらんや而して君今卒
然として去る後遺又何れにか問はんや巨見限らて天爲めに悔し余君
と相識る並に處あり其の風貌今朝目前に存す想ふて茲に五れば萬感
胸に迫りて言ふ所を知らず聊か壽辭を陳へ臨みて英靈を弔せんと
す

大正十四年五月二十六日

勸業模範校長

農學博士 大工原銀太郎

弔 辭

維大正十四歲 乙丑夏六月立成尋常高等小學校長中村淺治郎溘溘
拜歸而於故東京帝國大學教授正四位勳三等農學博士上野英三郎君之
賢嗟呼君才華傑出學識淵博學術之精進行之神其蘊千內者洞知泉源之

溘溘其形于外者朝如月星之發越既著濟濟官行繼不終歎耶君始而學于
編成農科校長而負其才東都本最高府更留學于海外留學于英于法
次次獲博士在帝國大學教授授授於地方之開發名聲噴々于朝野不肯淺
希君之聲咳已久矣客歲不肯奉職于鄉僕君亦隨者焉於是乎介弟上
野三郎君始接尊容于高論別給一言一句無不擊邪家之將來可冀其金
日以稱譽豐饒之狀又曰有俊才而學資不給爲屈志者來會余爲此輩可
給資其高潔而思後進之深者益異數也而不肯淺末果高鳴君亦廢志近年
嗟乎情哉天若假君以漸不獨後進之幸福其於邪家幸福果如何也更有深
感者不肯淺與君年齒相若而客秋小戶木之土磁碑也君策願之不肯淺與
文之俱刻名于碑而君今也亡矣豈堪堪哀乎思至是情發胸塞復巨首嗚呼
悲哉尙鑒

弔 辭

農友農學博士上野英三郎君病を以て忍焉として逝く嗚呼憶哉君は我
農學界の耆宿にして予等皆級友の一人として君を有することか誇と
なし事公私の別なく君に預恃するを常とせり春來君が病を癒るや予
等皆憂拮と能はざりしも君元氣の致て我へざりしと日を逐ふて病愈
るが如なるを見て聊か意を安んじたりが念變に際會、茫然自失今尙
君が易養を信する能はざるの感あり
君は人格高潔人に對して城府を設けず人の問ふあらは其蘊蓄を盡し
て餘さず又事を處する頗る公平にして獨私する所なく殊に友情に篤
かりしは既に學生時代に於て顯はれ君の假寓は級友の塚山伯となり
君が研學を妨らざる所許ながらざりしも君は始終好意を以て友を遇せ

君が其學業を卒へ大學の教授に立つて至るや君は益々此英德を發揮し大人子弟の爲め更卒四走履まらざることも多かりしも君は故て意に介せざるのみならず寧ろ其及ばずらむことを憂ふるの風あり之を以て君を敬愛し君の徳を慕ふて門を叩くもの頗る多かりしは既に人のよく知る所なり故に居が耳を患ふるや君の門下生相謀り別業を菜山に替ふ君が静養に資せしか如き今日種に見る師弟間の美談は蓋し其反響の一たに外らずと有ふべし

又君は萬學の士にして君の専攻せる農業工學の發達に關しては須臾も忽にせず事の斯學に關するものは病を犯して之れに努め其學界及實業界に貢獻せる所頗る多大なるものあり天若し假りに壽を以てせば我農學界は君によりて一大進歩をなし得たるべきは亦疑を容れず然るに歸知命を過ぐる幾くもなくして遽逝す遺憾極りなしと雖も君が建設したる農業工學は略獨立せる一科をなすに至り君が生ける紀念として永世不朽なるべし君亦以て瞑すべきなり回顧すれば予が君に始めて相見べしは白面學生の時なりしが爾來髮鬚を置くの今日に至るまで予は常に君に親交し君に負ふ所多かりしが今や幽明境を異にして唯阿々と笑ふ君が聲を耳底に印せられ君の瀟容眼前に劈解するを覺ゆるのみにして再び君が囁かに接し助力を仰ぐ能はず嗚呼嗚呼轉々往事を追想すれば涕淚滂沱亦吾所不知らず聊か藁辭を陳ね讀んで君が英魂を弔す

大正十四年六月九日

以鳴會々員總代

農學博士 安藤 廣太郎

弔辭

大正十四年六月九日河北一郡泣血再拜門下生一同を代表し 謹て我上野先生の靈に白す先生に我國農業工學の泰斗なり我等の師父なり我等の農業工學を修むるや先生は嚴父の如く我等を陶治せられたり慈母の如く我等を覆育せられたり今や再び先生を見ること能はず嗚呼哀哉

我等の活動は年と共に益々盛なるを致せり内地に朝鮮に臺灣に樺太に苟も我國農業工學の關するところ我等は其の活動を繼續せり耕地整理事業然り土地改良事業然り土地利用及開墾事業然り農業水利改良事業亦然り進んで大震天帝都復興の事業に及べり而かも其の活動の源泉は先生に在りたり今や再び先生の指導を仰ぐこと能はず嗚呼哀哉

先生天資英邁氣憤激情氣を一掃して常に我等の活動を鼓吹せられたり然かも囂するところ深くして思慮周密大其の情を盡さざるところなし其の我等を指導せらるるに方りてや情義共に深く道材を蕩所に配し麗麗なりと雖之を棄てて以て其の能を盡さしむ及門の弟子三千人皆先生の教に服し先生の情に泣けり我等の先生を慕ふこと痛切なる所以實に茲に在り今や乃ち亡し嗚呼哀哉

先生の名利に恬淡なる全く天資に出づ人の厚報を以し先生を聘せんとするものあるも斥けて受けず常に曰く余は發言權の窮乏せられざらしむことを欲す厚給の如きは余の寒志を妨ぐるものなりと數年前先生大忠に罹らせらる門下生痛心相謀り地をトとして之を先生に獻し静養を請へり先生首下に之を斥けて曰く余は資財を交ふるを欲せずと強て請ふに及び門下生の衷情を容れ單に之を使用することな

弔辭

許されたり凡そ此の如く故に先生の行ふところ不羈獨立公明正大
々として白日の如きものあり其の主張するところ堅くして有力なる
固より然るべきところなり

先生晩年の志は支那に在り健康にして回復せば一度支那に遊びて其
の志を行はんと期せられたり未だ行はれざるに忽焉として他
界せらるる眞に國家の恨事なり

嗚呼先生先生の大志は未成なり眞に未成なり先生在天の遺夫れ或は
冥し雖も其のあらむ我等思ふて茲に到る實に賜を寸断するの思あり
然れども先生の建設せられたる我農業工學の基礎は強固なり及門三
千の弟子其の敷決して鮮しとせざるなり或は協心戮力益々精進し
て其の活動を繼續し先生の遺志を發揚して以て國家に貢獻せんこと
を期す

大正十四年六月九日

門下生總代 河北 一郎

故博士の略歴

上野英三郎

三重縣平民

明治二十八年七月十日

帝國大學農科大學農科卒業

明治四年十二月十日伊勢國一志郡本村に生る

嗚呼悲哉、我等が祖父の如く敬慕し奉りし恩師上野英三郎先生の
遺容水へに拜する能はず辭々たる先生の學業功業を讀へ奉るは我等
の道に非ざるべしと雖も先生が門弟を導くこと懇切周到にして其生
靈時代は勿論社會に出て、後、三三啓沃諸國の煩を厭ひ給はず我等
我が今日あるは全く先生の賜に由るに何等の不幸ぞ今遽かに先生
の訃を聞く門下生一同茫然自失闇夜に燈火を失ひたる心地して爲す
所を知らず海嶽の大恩師酬ゆるに由なく哀悼悲痛何んぞ堪へん涙
痕盡きずして南山雲重く萬感迫りて香檀拈く所彷彿として先生の温
顔に接するの感あり

大正十四年五月二十六日

朝 鮮

門下生總代 綾田 豊

同 年 同 月 同 日
 二十九 年 七 月 二十一日
 三十一年 一 月 二十七日
 三十二年 四 月 十四日
 三十三年 八 月 十八日
 三十五年 三 月 三十一日
 同 年 同 月 同 日
 三十八年 十二 月 二十二日
 四十年 三 月 一日
 同 年 三 月 十二日
 同 年 三 月 二十日
 四十一年 三 月 三十一日
 四十二年 二 月 二十八日
 同 年 六 月 十六日
 四十三年 四 月 二十三日
 同 年 五 月 二十四日
 同 年 五 月 二十六日
 四十四年 十一 月 二十八日
 大正二 年 十二 月 二十六日
 五 年 十二 月 九日
 七 年 三 月 二十八日

農業土木及農具研究の爲め大学院入學
 農業水利に關する事項調査を託す
 淀川流域内用排水路に關する事項調査を囑託す
 農業教員養成所講師を囑託
 東京帝國大學農科大學講師を囑託す
 農學第二講座に屬する職務分擔の事
 任東京帝國大學農科大學助教授
 農學第二講座分擔を命す
 兼任農商務技師
 文官分限令第十一條第一項第四號に依り休職を命す
 本年三月二日付閣私費留學の件許可す
 獨逸へ向け出發
 農業土木研究の爲め滿二ヶ年間獨逸及佛國へ留學を命す
 休職満期
 御用有之北米合衆國へ被差遣
 歸朝
 耕地整理及土地改良事業並に農用器具機械に關する事項
 調査を囑託す
 任東京帝國大學農科大學助教授
 農學第二講座分擔を命す
 任東京帝國大學農科大學教授
 農業工學擔任を命す
 農學博士の學位を授く
 陸軍高等官二等
 紋勳四等授瑞寶章

農事試驗場
 第五區土木監督署
 東京帝國大學農科大學
 東京帝國大學
 同 右
 文部省
 農商務省
 文部省
 農商務省
 文部省
 文部大臣

十一年一月三十一日

臨時清水園畫臨時委員被仰付

内閣

四月一日

土埴改良事業指導獎勵に關する事務を囑託す

朝鮮總督府

八月三十日

産業調査委員を囑託す

右 同

十二月二十六日

陸高等官一等

十一年一月三十日

敘從四位

三月二十九日

叙勳三等授瑞寶章

四月十七日

平和紀念東京博覽會審査官を囑託す
農用器具展覧會講師を囑託す

農務省

十二年八月二十七日

右 同

涙痕餘録

上野博士は急に彼の世の人となつて仕舞つた、我等は悲哀の間にも博士につき思ひ起すことか數々多いのである哀悼號の紙上其二を述べて讀者と共に博士を偲ぶも亦我等の至情である、

故博士の生涯は全く自我を没脚した犠牲的の生涯であつた、眼目の刹那迄も病癪を忘れて農業工學の發展に關して健闘せられた我等は今更ながら博士の高潔なる心事に對して崇敬の念を禁し能はざるものがある、時として夫人から博士御一身の將來に關し

て話されることもあつたが博士は「自分の將來など考ふる余裕は無いよ、未だ外に考へなければならぬ問題が澤山ある」と斥けて居られたと云ふことである、病臥の間にも少し氣持の好い時には直ぐ起き出して手紙を認められるし、訪客があると面會時間を制限しても興に入れば例の談論風發で制限時間はいつの間にか忘れてしまふといふ有様であつた、そこで御家族や友人などが心配して自宅では辭養困難であるから極力葉山行を誘められたが違ひうけがはれなかつた「無爲にして拾年を生きんよりはむしろ活動の三年を欲する」とは博士が大學病院に入院中常

に違へて居られたところである。

博士は斯様に緊張した生涯を送られたのであるが、自己一身の趣味に没る様な暇は余り多くは無かつた様に思はれるのである。所謂英雄閑日月ありといふ次第でその趣味の廣かつたことは何人も驚嘆するところである、芝居でも、音曲でも、西洋趣味のものも左程でも無かつたが、歌舞伎や、淨瑠璃に關しては例の犀利な眼光から仲々肯綮に當る批判を加へられた更に博士の趣味深き方面としては建築、園藝料理等何れも玄人、裸足の造詣を持つて居られた、今の大向の邸宅の如きもその建築は誠によく注意が行届き殊に臺所の設計の如きは殆んど完璧に近いものがあること云ふことである、友人や門下生が住宅新築の圖案でも示すと、博士は忙しい間にも精細に之を點檢して懇切丁寧に加除修正を加へらるゝばかりでなく、大工や園丁迄世話をして自ら現場に臨み事を指揮せられる、之れは博士の親切心から出たことは勿論であるが博士が建築造庭には一隻眼を有せら

るゝに非んば到底なし難いところである、右の様な次第で我等は中澁谷の路上時に黒衣をつけられた博士の園丁姿に出會ふこともあつた、友人や門下生は博士の此の親切に訴へて、思ひも掛けぬ工事の進捗と完璧を期し得たのであるか之が爲めに頭を痛めたのは大工と園丁であつた、博士は例の性質から徹底的に指揮監督をするのだから、たまらない、一寸も誤魔化の出來ぬのみならず、植木なども余りひどいものになると取換を命じて居られた、或る時一門下生の造庭に際し植木屋が扣の松の副木として樅の大木を大八車に乗せ曳々として持つて來た、木は美事だが大木に過ぎて副にはならぬとて早速持ち歸りを命ぜられたのみならず博士から大々的大眼玉を頂戴して恐縮して仕舞つたこともある、然しそこは博士の美德で平素懇切に使つて居られるのだから、植木屋は叱られながらも心服してよく命に従ひ一言も不平がましいことを謂ふことは無かつた。

之に就ても思ひ起すのは博士の僱人の使用振りで

あつた、嚴格の中にも極めて寛容の態度を持し平時自己のことは成べく自己で所辨し少しも傭人の勞を少くする様に心掛けられたそれ故女中にしても來てから一ケ年も経つ頃には見變つた様に順良な性情になつてしまふ所謂徳を以て化せられるのだ、勿論之に付ては夫人の薰陶も與つた方があつたに相違ないが博士邸に事があれば昔からの女中若達が皆遠方から集まつて來る、今回の急變にも、取る物の取り敢す馳せ付けたものは友人、門下生と共に新舊の女中君であつた、動もすれば舊主人の惡聲を放つ手合の多い世の中に誠に氣持のよい話ではないか。

更に思ひ起すことは博士の徳は禽獸にまでも及んだとである、今その一二を述べれば博士は大の犬好であつた博士が夜晩く歸邸の時など愛犬は電車の終點邊り迄出迎へて嬉々として其裾に戯むれる様子は誠に可憐の極であつた、さりとて平常博士自ら食餌の世話をせられると云ふ譯では無かつたが慈悲深き主人を慕ふて一刻も早く其座右に待せんとする至情

は此可憐な動物にも發露したものであつて博士の徳の然らしむるものと思はれる「カナリヤ」の如き小鳥にしても博士にはよく馴れて博士の手に止まり懐中に入り全く小兒の慈母に對する如き有様であつた。

料理に關しても博士は其の造詣頗る深く邸内で招客の時友と自ら臺所に出て指揮せられることが多かつた之に付ても博士一流の徹底的な研究心から少し變つた料理を試むる時は材料の使ひ方、味付の具合など一々仔細に問ひたゞして居られた、庖刀の使ひ方迄も説明を試みられるのである、我等は博士獨特の料理談を承はりなかり御手料理を頂戴したことも屢々あつた、今その話を茲に持ち出して博士の溫容を思ひ起すも眞に涙の種なから懐しさの極である。博士より夫人への手紙の多くは菜園の注意で充たされて居つたことも博士の天眞を窺ふべき一端であると思はれる、今夫人の許を得て其の一二を左に抄録することゝした、これは先年の夏暑をさけて病を箱根に養はれて居られた時の手紙である無心の植物

對にしてさへも博士のやさしい同情心が如何に發露せられて居るかその字句の間にほの見えるではない

か
其一

廿二日夕より曇りはじめ今朝程よりバラ／＼と降つてはやみ、やみては降り、雨はたいしたことにはなきも風はだん／＼深くなりさうで、何だか荒れ模様です、東京もおなじことですか、東京の方角は何だか明るい様で雨がでないではないかと必杯いたし候、然し畑の水やりが入らぬ位は降つたかと思はれ、いくらか今日は、御樂なりしならむと存居候ポンプも片付き、畑も一段落にて、まづ一安心でシロー、畑は白菜、大根共だん／＼とウロキキをしてやつて下さい、そして根元へ土をよせてやつて下さい、生爪と、インゲンのところは抜き取つて、大根をまき

ましたか、またなら早速さうして下さい、それから大根や、白菜のどこは最初のうち真中がわいて居りますから、小鳥の菜葉や、小毛でもまいてをいたら如何です勿論雨降のあとなどに種をふりまき土を引かきましてをけばよろしい、別に丁寧にまく必要はないのです。下略

其二

前略

大根は先、今菜葉のあるところ枝豆、インゲンのあるところにまく、枝豆のところが一番早くまけると思ひます、早い所へ聖護院、それから、宮重、練馬の順におまきなさい、聖護院は可成白菜と一所にまいてよろしい、矢張り七寸五分間に七八粒をまけばよろしい
ふじ豆のつるが段々のびてくるから、か

きね一杯にひろがる様に手傳つてやつて
下さい
菊と友か來たら茄子に一度肥料をやらし
て下さい、序に牡丹、シヤクヤクにも

下略

博士郎の附近に住つて居る門下生共は博士の丹念に成つて豆や蕨を度々頂いたものであるか今年も豆も蕨も壯んに生ひ廣かつて居るか菜園に立つて微笑を含まれた博士の面影を見ることが出來ない、今年の新緑は何となく物淋しいと思ふも今更ながら涙の種である。

會 告

在京幹事會

本會在京幹事會を四月二十二日午后四時より農林省内に開催出席者は有働、片岡、豊田、河北、大岡

木下、坂本の七幹事にして、大正十三年度決算報告に次て大正十四年度豫算案本議を議決し尙本會々則變更に關する件を協議し五時半散會す。

本會幹事會並懇親會

本會幹事會を四月二十七日午后四時三十分より丸の内中央亭に於て開催、出席者在京並地方各幹事五十一名にして別項の通本會々則變更の件並上野、月田兩幹事を名譽會員に推薦の件を満場一致にて可決し、尙其の他の件に付協議を爲し終つて六時より會員の大懇親會に移れり、出席者百五十名にして席上有働幹事の挨拶に次て會員石黒農務局長其他數氏の卓上演説あり、八時三十分盛會裡に閉會す。

本會々則變更の件

前掲の幹事會に於て左記の通變更す

會則

第四條の次に一條を加ふ
第四條之二